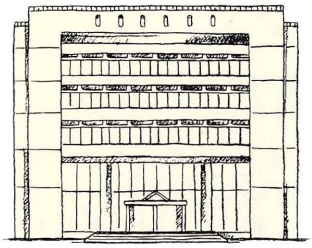
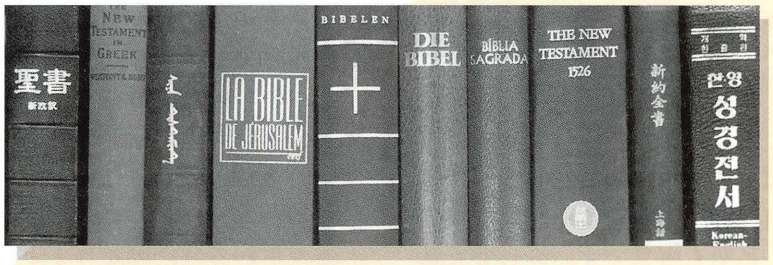
ISSN 1344-5642

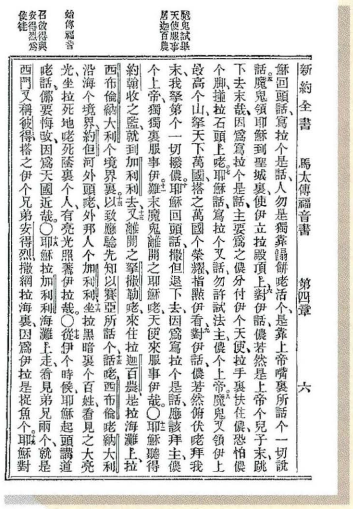
西南学院大学



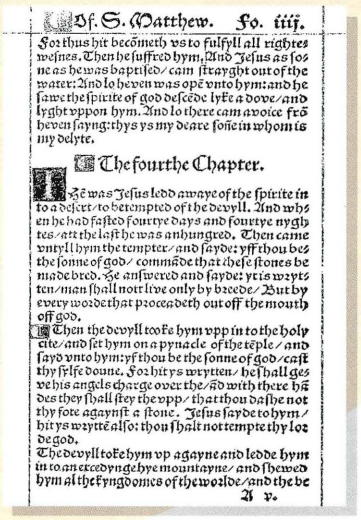
図書館報

No. 151
2001.10





（上海語）



（英語）

（韓国語）

世界の聖書

――マタイによる福音書第４章４節――

目次

図書館は発見の場　図書館長 尾上 修悟　2
学術情報検索室を設置しました　3
後輩に読んで欲しい本：
気軽に読書を　文学部外国語学科２年 谷 美幸　4
ジョルジュ・サンド　文学部外国語学科２年 野田 悠葵　4
一・二年生に読んで欲しい本　法学部法律学科３年 松村 啓史　5
「恋人にふられた男が教えてくれる世界」　大学院文学研究科英文学専攻２年 石田 直子　5
外国大学の図書館事情　情報サービス課係長 古庄 敬文　6
世界屈指の図書館を視察　整理課係長 梶木 秀之　7
読書案内・お知らせ・編集後記　8

図書館は発見の場

図書館長 尾上 修悟

図書館は、いうまでもなく、読書の場を提供します。本を真剣に読んでいる最中に、もちろん他人とおしゃべりすることはできません。他人から話しかけられることも拒まれるはずです。本を読んでいる間は、人間は孤独になっているのです。そうした孤独感を純粋な形で体験させてくれる所、そこが図書館なのです。図書館内で携帯電話の使用は禁止されています。この点は、世界で共通しているといえるでしょう。私が昨年留学していたパリの大学の図書館でも、携帯電話を鳴らした学生に対し、図書館員は即座に容赦なく叱責していました。もちろん、私語も厳禁です。少しでも話している学生達がいると、かれらはやはり直ちに「シーッ」と強く注意されていました。このように、皆さんは、図書館で孤独になることができます。それによって、自分自身の思考を深めたり、想像力を高めたりすることができるのです。さらに、新しい自分を発見することもできるでしょう。今日の「ケイタイ文化」といわれるものに、もしも問題があるとすれば、それは、「ケイタイ」が人間の孤独感を奪いとってしまう点にあるのではないでしょうか。読書は、孤独になる機会を与えてくれます。1日に1度は、「ケイタイ」を断ち切って、図書館で一人になってみてはどうでしょうか。それによって得られる精神的かつ知的な充足感をぜひ味わって欲しいと思うのです。

ところで、図書館はまた、膨大な情報がストックされている所でもあります。図書館の1つの大きな役割は、そうした情報のストックを利用者にフローさせることです。利用者は、それによって必要な情報を得ることができます。その際の情報の取得方法は、大きく2つに分けられるでしょう。第1に、伝統的なものとして、辞書や研究書、あるいは新聞や雑誌などを丹念に調べて情報を取得する方法があります。この方法は多くの時間を必要とし、また、迂回的でさえあります。そこには、たしかに、余計な情報も数多く含まれていることでしょう。その点で、この方法は能率的とはいえないかもしれません。しかし、そこには、他の方法では決して得られない独特の楽しみがあるのです。そうした方法を用いる中で、皆さんは、思わぬ発見をしたり、あるいは情報の広がりを感じ取ることができるはずです。第2に、最新の方法として、コンピュータによる情報の取得があります。今日、情報はますます電子化されています。われわれは、インターネットを活用することにより、居ながらにして世界中の情報を簡単に得ることができます。現代はまさに、情報の世界的共有の時代なのです。皆さんにはぜひ、そのすごさを体験して欲しいと思います。ただ、忘れてならないのは、インターネットは決して“魔法の杖”ではない、という点であります。安易にインターネットに頼ることは、思考のプロセスが欠如した危険な道を歩むことにもなります。伝統的な方法と最新の方法は、二者択一的なものではなく、同時並行すべきものである、と私は思うのです。

最後に、西南学院大学の図書館が今日抱えている課題について、私の気がついている点をのべたいと思います。第1に、レファレンス・サービスをいっそう充実させることがあげられます。図書館で提供されるサービスの中で、利用者にとり最も重要なのは、やはりレファレンス・サービスだと思います。レファレンス（reference）は、図書館用語として「資料調査」を意味します。理想的なサービス体制は、利用者のいかなる質問にも応じられるものです。コンピュータですぐに検索できる単純な調査よりも、むしろ、より多くの時間と労力を必要とする文献調査こそが、真のレファレンス・サービスだと思います。こうした調査を惜しまずにできる体制をつくる必要があります。第2に、新刊書を充実させることが考えられます。今日、世界中の図書館で一番問題になっているのは、本の所蔵の問題であるといわれています。所蔵される本の数は、いうまでもなく、図書館の大きさによって制限されます。そこで、より多くの新刊書を入れるためには何らかの工夫が必要とされるわけです。例えば、パリのある大きな図書館では、一定年数を経た本は他のより小さな図書館に移管され、その分、新刊書を入れるシステムが採られています。新刊書を充実させることが、利用者に対して、図書館をより魅力的なものにさせることはまちがいありません。西南学院大学にとって、いかなる工夫が可能かを探るときがきている、と思えるのです。（経済学部教授）

学術情報検索室を設置しました

2001年10月、図書館２階に「学術情報検索室」を設置しました。この部屋では、12台のパソコンを設置し、従来図書館 SAINS ルームで利用していた CD-ROM が検索できるようになりました。また、CD-ROM の一部はネットワークを通じて、学内どこからでも検索できるようになります。（Macintosh については来年度からアクセスできるようになる予定です。）このため、図書館 SAINS ルームで利用していた CD-ROM は学術情報検索室でのみ利用可能となります。

また、この部屋には少し幅広の机を用意していますので、図書や雑誌、CD-ROM、インターネットを使った総合的な勉強が可能です。ただし、数に限りがありますので、長時間の独占はできません。また、メールの利用もできません。

【利用できる CD-ROM】

１．パソコンに CD-ROM を直接挿入して利用できるもの

①CD-HIASK［1994-2000］
　朝日新聞全文記事情報
②朝日新聞号外
③The Times and The Sunday Times
④CD 学会年報・研究報告論文総覧1945-1995
⑤世界文学全集総覧
⑥イミダス特別付録
⑦知恵蔵特別付録

※従来どおり、閲覧カウンターで貸出しいたします。

２．ネットワークを介して利用できるもの

①雑誌記事索引［1975－現在］
　国立国会図書館所蔵の和雑誌の内、学術的な雑誌の記事索引が検索できます。
②Reader's guide to periodical Literature
　アメリカの大衆的な雑誌約240種に掲載された記事が検索できます。
③Official Journal of the European Communities
　EU の官報の CD-ROM 版です。

※一度にアクセスできる数が決まっています。アクセスできない場合は、しばらく待って接続してください。

・利用時間：平　日　９時～16時50分
　　土曜日　９時～12時

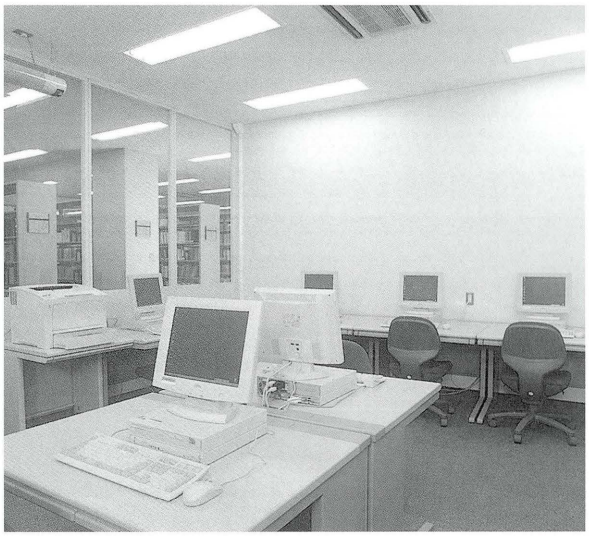
情報コンセント室を設置

図書館３階には情報コンセント室を設置しました。

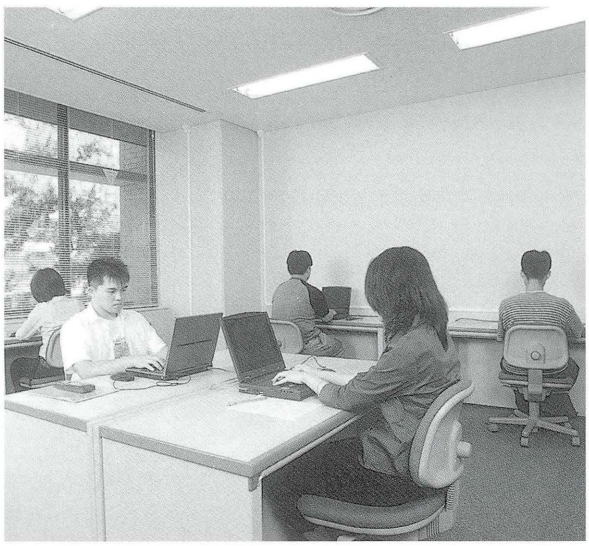
この部屋は、SAINS に個人のパソコンを接続して利用できるもので、そのための情報コンセントを用意しています。もちろん、ネットワークに接続せずパソコン単体での利用、あるいは電卓の利用もできるようになっています。

なお、この個人パソコン接続用情報コンセントの利用にあたっては、情報処理センターで個人の機器の登録申請を行うことになっています。

・利用時間：９時～20時30分



学術情報検索室



情報コンセント室

後輩に読んでほしい本

気楽に読書を
ー発見する楽しみ

文学部外国語学科英語専攻２年
谷　美幸

「何気なく手にとった本だったけど、すごく面白かった」「読み始めたらハマってしまった」という楽しい経験、皆さんにも一度はあると思います。本を読むと「自分の考え方がちょっと深くなる、視野が広がる、新しい発見がある」ことを実感できる時がありますよね？今まで数多く読んできた本の中で、特に「新しい発見」が強い印象を残した本を幾つか紹介したいと思います。

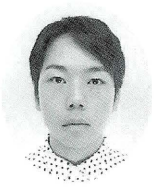
・**最新東洋事情（深田祐介 著）**
私達の知らないアジアの実状が紹介されています。規制大国シンガポール、日本人より日本を愛するミャンマーなどなど。「同じアジアでもこんなに何もかもが違うのか！」と改めてビックリ！

・**桃尻語訳　枕草子（橋本　治 著）**
「春は曙…」で始まる清少納言の『枕草子』が「春って曙よ！」と思いっきり現代の言葉に「直訳」された本。『枕草子』って堅苦しい本じゃないんだ！と大発見！

・**世界の砂漠を緑に（遠山柾夫 著）**
「砂漠で甘いメロンができる」ということを初めて知りました。「砂漠こそ農業に大切な土地だ！」という考えの下に著者が続けてきた研究、そして実践の記録です。砂漠のメカニズムや農業、環境問題に至るまで全てをひっくるめた、専門書とエッセイと写真集が１つになったような本。植物の生えない砂や石だけの場所という砂漠のイメージを壊して新発見ができます。

・**故事成語（合山　究 著）**
趣味は何ですか？と聞かれて返事に困ってしまう人がいたらこの本の「無絃の琴」のページを読むことをおススメします。「こういう考え方もあるのかぁ」とちょっとホッとするはず。故事成語にまつわる様々なエピソードをテーマ別に紹介してあり、ひとつの言葉がこれほどの重みを持っているのかとまた新しい発見。

私が読むのはアジアや語学、環境についてのものや小説がほとんどです。皆さんも自分の好みに合わせた本をどんどん読んでいってください。自分が今まで知らなかった分野での興味がわくという「新しい発見」があるかもしれません。



ジョルジュ・サンド

文学部外国語学科フランス語専攻２年
野田　悠葵

好きな作家はと聞かれたら、私はフランスの作家ジョルジュ・サンドと答えるでしょう。サンドといえば、「ショパンの恋人」「男装の麗人」などパリの社交界を騒がせた女性というイメージが強いけれども、私はどちらかといえば、サンドの作品に見られるように、政治や社会に屈せず、たくましく生き、愛することの素晴らしさを謳った女性という印象を持っています。

私がサンドの作品に思い出深いのは『アンヂアナ』です。作品のあらすじをまとめると、ブルボン島で生まれた16歳のアンヂアナは、親の決めた許婚で彼女より40歳も年上の退役軍人デルマール大佐と結婚してフランス本土に渡る。しかし夫は乱暴で思いやりがなく、彼女は心身とも疲れた生活を続けることになる。そんな彼女の前に美青年レイモンが現れ、彼女を誘惑するが、結局彼女は捨てられてしまう。島に帰ったアンヂアナはそれでも彼のことを忘れることができずに病気の夫を残し彼の元へ駆けつけるが、レイモンはすでに結婚していた。その後夫の死の知らせが届き、絶望と後悔にさいなまれ、幼なじみで昔から彼女を愛していたラルフと心中しようとするが思いとどめ、二人は残りの人生を森のなかでひっそりと身を寄せながら暮らすことにする。

当時のフランス社会では、女性には自由がありませんでした。結婚も今のような恋愛結婚ではなく親が決めることが多く、女性は男性より頭も体も劣るものと考えられ、妻の財産でさえ夫が管理していた時代でした。そんな社会のなかで、サンドはアンヂアナという女性を通して、社会と堕落した結婚制度に正面から戦ったのです。またサンド自身も政治や社会に対し激しく戦いました。一方、サンドは政治的活動に参加するだけでなく、人を愛することの素晴らしさや人としての道徳をも孫たちのために書き下ろした童話を通して優しく語っています。

サンドの作品は今の私たちから見れば古臭い感じがしないでもありませんが、自分に対して正直に生きることの大切さを私に教えてくれました。どんな状況に置かれることになっても正しいことを主張し、常に人を愛する大切さは、今の私たちの世界においても大切なのではないでしょうか。

後輩に読んでほしい本

一・二年生に読んで欲しい本

法学部法律学科３年
松村　啓史

どんな本が良いか苦悩しましたが、バルザック著『役人の生理学』（鹿島 茂編訳　新評論）を推したいと思います。バルザックの生きた時代はルイ18世による王政復古の時代ですが、ナポレオンの遺した法典もあり、多数の人数を必要とする近代的官僚体制の登場した19世紀です。役人の子で自身も役人だった著者は、役人の性格を「洒落者」「能なし」「収集家」「文人役人」「かけもち屋」「高利貸し」「ゴマすり屋」「商人」「猛勉家」「貧乏役人」と見事に見抜き、高給官吏を除けば、家は生活物資に入市関税のかからない市門の外で、吹きさらしの郊外鉄道で遠距離通勤となると、まるでマイホームため新幹線や満員電車で通勤している現代日本のホワイトカラーのようです。

この事態の発生した原因を、著者は革命で役人は「君主」の代わりに「万人」に仕えるようになったからだと言います。前者は両者の献身と信頼で結ばれ、役人の数自体少数だったので高給であったが、後者の万人に仕えるということは現実には誰にも仕えない政府の一職員ということであり、役人は俸給分しか働かず、当然行政事務の能率は低下し、増員するという永遠の悪循環が続くことになる。著者は「少ない役人で多くの仕事をする国家と、多くの役人でほとんど何もしない国家とでは、どちらが優れた国家か」と問いかけを行ない、自己の解答としたのは役人の大幅削減と俸給の大幅増額、それによる小さな政府と民営化の方針です。著者は主従関係が不可能になった以上、人間の根源的欲求である金銭欲に訴える以外にないと言い、これは日本の崩壊しつつある道徳と似ていると私は思います。しかし、行政改革の遂行が如何に困難かを著者は『役人』という小説で明らかにしています。

一・二年生の皆さんが、この19世紀フランスのユーモア・ノンフィクションを読んで、現在日本で推進されている「構造改革」に対する個人的対応策の参考書として、また将来、官民どちらに行かれるにしても、何らかの糧にしてもらえれば私も幸いです。

同書のイラスト画より

「恋人にふられた男が教えてくれる世界」

大学院文学研究科英文学専攻２年
石田　直子

石田「今回紹介する本はニック・ホーンビィ作の『ハイ・フィデリティー』（新潮文庫）。どこにでもありそうな話を物語にしたもの！」

松田「フィクションってなかなか頷けないものだけれど、この本ばかりは何回頷いたか分からないね。」

石田「そうそう、世の中には何かを訴えたい本が溢れているけど、High Fidelity は普通の男の生活をただ文字にしただけ!無気力なのに説得力がある。」

松田「それだけストーリーに現実性があるってことかな。男の視点から書いてあるから、女性には理解しがたい部分や腹立たしい部分もあるみたいだけど…。」

石田「男の視点から書いてあるからこそ、もっと早くこの本にめぐり逢いたかったよ。どこにでもいそうな主人公のロブは周りの男の行動を考えるうえで実に参考になるみたいだからね。でも、やっぱり読んでるだけなのに腹立たしくなることもあったよ。」

松田「だけど、好きな人にオムニバステープを作ってやるなんてロマンチックじゃない？気持ち悪いって言った友達も何人かいたけれど。新しい気持ちの伝え方かもね。何より作ってあげるって気持ちが大切なんじゃないかな？」

石田「そうだね。別れた後に辛い歌ばかりを入れたリベンジテープを送られたら辛いけど、それはそれらの音楽にそれだけの力があるってことかな。この本には要所要所にその時の気持ちを代弁してくれる歌ベスト５が出てくるから、音楽好きの人にも楽しんでもらえるかもね。」

松田「そして、僕らがこの本を推すもう一つの理由として、これから大人の関係を築いてゆく皆さんに、男女の本音ってものをお互い少しでも察し合えるようになればっていう理由もあると思うね。」

石田「今『大人の関係』って言ったけど、ほんとにいつまでも周りの人や自分に甘えてはいられない！この本では時間の流れもキーワードになってるけど、読みながら自分も同じように過去を振り返って、今を考えて、これから先を考える。そしたら自然と自分の周りにいる（いた）人たちのことも考えて、自分の生き方が見えてくる。」

松田「つまり、この本は複雑な人間関係をどのように自分の糧にしてゆくかを楽しみながら学べる本ってことだね。」

（相方は松田圭志さん＝大学院文学研究科英文学専攻１年）

外国大学の図書館事情 －職員海外研修報告

図書館情報サービス課係長 古庄 敬文

今年７月にアメリカの大学図書館と国連にあるダグ・ハマーショルド・ライブラリを訪問した。

アメリカの大学キャンパスは広大で、図書館はその中心に位置している。文字どおり、教育・研究の中心としての機能を果たしている。

訪問した大学は、サン・ディエゴ州立大学、ベイラー大学（以上本学協定校）、ノースウェスタン大学、ミシガン大学の４校である。訪問時期が大学が休みに入っている頃だったので、学生の利用者は少なかったが、そのかわり大学が開催しているサマースクールの受講者の小・中・高校生が熱心に図書館で勉強していた。

【大学図書館の共通した特徴】

特徴的なことは、ほとんどの資料が開架式になっていて、手にとって見ることができること、深夜まで開館していることである。また、貸出冊数に制限がないというところも興味深い点である。もちろん貸出期間は決まっているので、延滞すると延滞金支払いなどのペナルティーが科される。アメリカでは個人の権利と義務がはっきりしており、自分の行動に責任を持つことが強く求められる。

資料の検索手段として、いろいろなデータベースを用意し、より効率的に研究ができるようにしてあるところも共通するところであった。

【貴重コレクションの紹介】

ベイラー大学には、Armstrong Browning Library がある。これは、イギリスの19世紀の詩人の Robert Browning に関する世界最大のコレクションである。このコレクションは独立した建物の中にあり、その建物の窓にはステンドグラスがあしらわれ、非常に美しい。中身は Browning の書簡や草稿はもちろん様々な資料が集められている。もしベイラー大学に行かれる時は、ぜひご覧になることをおすすめしたい資料である。
(http://www.browninglibrary.org/information.htm)

ブローニング　ライブラリ（ベイラー大学）

その他、訪問した大学はすべてアメリカ政府資料の寄託図書館になっていたが、アメリカ草創期からの議会の審議記録、大統領演説、人口統計などを含んでおりアメリカを研究していくうえで、非常に貴重な資料である。

国連ダグ・ハマーショルド・ライブラリ

【国連ダグ・ハマーショルド・ライブラリ】

最後に訪問したのが、国連にあるダグ・ハマーショルド・ライブラリである。国連ビルやその中の安保理の会議場などはご存知であろうが、この一角にこのライブラリは設置されている。このライブラリと西南学院大学の国連寄託図書館は密接な関わりがある。というのも、国連寄託図書館に関する指示はここから出ているからである。ここでは、各国の大使館や国連職員からの質問を一手に引き受けているので、レファレンスカウンターは始終問い合せの電話が鳴り響いている。日本人の職員も４人おられて、第一線で活躍されている。今回、この図書館で一週間にわたり、国連資料についてのトレーニングを受けた。

以上紙面の関係上、簡単な報告になったが、この研修成果を今後図書館利用者のために活かしていけるよう努力していきたい。

世界屈指の図書館を視察　－職員海外研修報告

図書館整理課係長　梶木　秀之

私は、７月11日から約１か月間、職員海外研修制度を利用して、本学学生のためのプログラムである英国ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ夏期語学研修に参加しました。また同時に、この恵まれた機会を利用して、ケンブリッジ大学図書館の視察も行いました。ここでは、図書館報ということを踏まえ、ケンブリッジ大学図書館について、私の感想などを含めて紹介したいと思います。

ケンブリッジ大学図書館は、英国およびアイルランドで出版されるすべての本・雑誌・地図等が自動的に納品される legal deposit library で、日本でいう国立国会図書館と同じような機能を持つ重要な図書館です。その歴史は約600年にもおよび、ヨーロッパでは最も古い図書館の一つに数えられています。また、同館は大学のメイン図書館であると同時に世界屈指の研究用図書館でもあり、このような恵まれた条件の中で、ケンブリッジ大学は世界で最も多くのノーベル賞受賞者を輩出してきました。

ケンブリッジ大学図書館

その蔵書数は、約700万冊で、開架が200万冊、閉架は500万冊となっています。閉架書庫の500万冊という膨大な図書等に対しては、利用者のために14人の専門スタッフが配置されており、待ち時間は通常、申し込みから約１時間ということでした。待ち時間が少し長いように感じるかもしれませんが、利用者はきちんと時間が表示されているため、その時間をほかの調査に費やすことができます。時間の表示という方法は、時間の有効的な活用という点で合理的だと思います。

また、私は特別に閉架書庫を見学させてもらいましたが、図書がずらりと並び、その眺めは圧巻でした。

一方、開架についても、図書が所狭しと並んでおり、天井の高いリーディングルームに置かれた約10万冊の参考図書には驚かされました。

リーディングルームに隣接したカタログルームには、30～40台の端末機が置かれていたので、担当者にデータベースについて質問したところ、現在、グリーン・スリーブス・プロジェクトのもとで６人の専門スタッフが30年を目標にしてデータ入力に従事しており、約700万冊のうち約150万冊のデータがすでにコンピュータに入力済みであるということでした。

次に、同館のコレクションについて触れたいと思います。進化論のダーウィンや万有引力のニュートンを知らない人はいないでしょう。この２人の偉大な科学者はケンブリッジ大学で学び、また教鞭をとっていました。その関係で、彼らの多くの著作物が同館に保存されています。そのコレクションは目をみはるものがあり、現在、同館の宝物となっているそうです。このほか、世界で最初に印刷された本をはじめ、世界で初めて人類によって書かれたといわれる紀元前1200年の古文書、アラビア、ギリシアの資料など、多数の貴重書があるということでした。残念ながら、これらを目にすることはできませんでしたが、後日、ケンブリッジ大学のトリニティー・カレッジ図書館で、ニュートン自筆のノートは見ることができました。また、同カレッジの前には、ニュートンのリンゴの木もあり、とても印象的でした。

ケンブリッジ大学図書館の利用許可をいただいたことは、私にとって名誉であり、一生の思い出となることでしょう。

ニュートンのリンゴの木の前で（トリニティー・カレッジ）

読書案内 ――こんな本もあります

人生で大事なことはすべて20代の読書で学んだ
中島孝志著／こう書房／019.0.72
生きるための101冊
鎌田　慧著／岩波書店／019.0.73
私が選んだ文庫ベスト3
丸谷才一編／毎日新聞社／019.0.57
二十世紀を騒がせた本[増補]
紀田順一郎著／平凡社／019.0.82
自分探しの本棚
木下明美著／松香堂／019.0.37
学問がわかる500冊
朝日新聞社／019.0.90
私の横っ面をはたいた本100冊
カタログハウス／019.0.48
思考力を高める読書の技術
鷲田小彌太著／日本実業出版社／019.0.60

お知らせ

◎文学部英文学科の Extensive Readings 図書について

図書館の4階に、“Penguin Reader Collection”から精選した洋書コーナーを設置しています。これは、英米の名高い文学作品を、学生の勉学の一助とするため、レベル毎の英語で易しく書き直したものです。英文学科の学生は当然ですが、他学部学科の皆さんも大いに活用してください。

◎資格試験・就職関係参考図書コーナー書架の増設、ベストセラーズ図書の増冊について

2階中央付近に、各種の国家試験や資格取得、公務員など就職試験、進路に関する図書を充実させるため書架を増設しました。今後、参考書・問題集も含め関係図書の増冊、整備充実を図っていきます。

また、上記の書架の増設に伴って、利用者が多いベストセラーズ図書の増冊も行なっていきたいと考えています。

◎学術情報検索室の設置について

10月1日から2階に「学術情報検索室」と3階に「情報コンセント室」が設置されました。利用内容・時間などは3ページに掲載していますので、お読みください。

大いに利用していただくことを願いますが、一人が長時間独占することは慎みましょう。

◎卒業論文用図書の貸出および卒業年次生の貸出について

卒業論文の作成準備に取りかかっている4年次生もいると思いますが、卒業論文作成に必要な図書は、通常の貸出とは別に長期貸出が出来ます。5冊以内、30日間です。貸出カウンターで「卒論用」と申し出てください。

なお、卒業年次生は、卒業年度の3月1日以降は図書を借りることはできません。貸出中の図書は、2月末日までに返却してください。

《図書館委員会》

7月3日(火)《兼 図書館点検評価委員会》
議題①図書館点検評価委員の委嘱について
　②図書館点検評価年次報告書(案)について
10月16日(火)
報告①学術情報検索室、情報コンセント室の開設について
　②修士論文の利用について
議題①開館時間および勤務体制の変更について
　②図書館利用規則の改正について

編集後記

先日、長崎県外海町にある遠藤周作文学館を訪れた。この地は氏の小説『沈黙』の舞台となったところ。180度の水平線を見はるかす高台に建つ文学館のテラスからの碧い海の眺めは、まさに絶景である。目の前の海を眺めながら、切支丹禁制下の異境の地で苦難や悲惨な殉教に接した主人公たちに、しばし思いを巡らせた。

西南に勤める者・学ぶ者としては、キリスト教に関係する土地を尋ねることは、自らの愉しみの一つにしていきたいものである。

折りしも絶好の紅葉の季節、そして読書の季節。文庫本でも持って歴史小説・文学にゆかりある土地へ旅にでかけてみてはどうだろう。　(田)

西南学院大学図書館報　No.151　2001（平成13）年10月29日　発行
編集　館報編集委員会
発行　西南学院大学図書館　〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号　TEL（092）823-3426